

帝國國策進行要領

昭和十六年九月六日
御前會議決定

0051

帝國ハ現下ノ急迫セル情勢特ニ米、英、蘭等各国ノ執レル対日攻勢、
「ソ」聯ノ情勢及帝國国力ノ弾劾性等ニ鑑ミ「情勢ノ推移ニ伴フ帝國
國策要綱」中南方ニ対スル施策ヲ左記ニ拠リ遂行ス

一、帝國ハ自存自衛ヲ全ウスル為対米、一英、蘭ニ戦争ヲ辞セサル決意
ノ下ニ概ネ十月下旬ヲ目途トシ戦争準備ヲ完整ス

二、帝國ハ右ニ並行シテ米、英ニ対シ外交ノ手段ヲ尽シテ帝國ノ要求貫
徹ニ努ム

対米（英）交渉ニ於テ帝國ノ達成スヘキ最少限度ノ要求事項竝ニ之
ニ關聯シ帝國ノ約諾シ得ル限度ハ別紙ノ如シ

三、前号外交交渉ニ依リ十月月上旬頃ニ至ルモ尙我要求ヲ貫徹シ得ル目途
ナキ場合ニ於テハ直チニ対米（英、蘭）開戦ヲ決意ス

対南方以外ノ施策ハ既定國策ニ基キ之ヲ行ヒ特ニ米「ソ」ノ対日連合
戦線ヲ結成セシメサルニ勉ム

対米（英）交渉ニ於テ帝國ノ達成スヘキ最少限度ノ要求事項竝ニ之ニ
関連シ帝國ノ約諾シ得ル限度

才一 対米（英）交渉ニ於テ帝國ノ達成

スヘキ最少限度ノ要求事項

一、米英ハ帝國ノ支那事變処理ニ容喙シ又ハ之ヲ妨害セサルコト

(1) 帝國ノ日支基本条約及日滿支三国共同宣言ニ準拠シ事變ヲ解決セ
ントスル企圖ヲ妨害セサルコト

(2) 「ビルマ」公路ヲ閉鎖シ且蔣政權ニ対シ軍事的、政治的竝ニ経済
的援助ヲナササルコト

(註) 右ハ日工作ニ於ケル支那事變処理ニ關スル帝國從來ノ主張ヲ妨
クルモノニアラス而シテ特ニ日支間新取極ニ依ル帝國軍隊ノ駐
屯ニ関シテハ之ヲ固守スルモノトス但シ事變解決ニ伴ヒ支那事
變遂行ノ為支那ニ派遣セル右以外ノ軍隊ハ原則トシテ撤退スル
ノ用意アルコトヲ確言スルコト支障ナシ

支那ニ於ケル米英ノ經濟活動ハ公正ナル基礎ニ於テ行ハルル限
リ制限セラルルモノニアラサル旨確言スルコト支障ナシ

三、米英ハ極東ニ於テ帝國ノ国防ヲ脅威スルカ如キ行為ニ出テサルコト

(イ) 泰、蘭印、支那及極東一ソ一領内ニ軍事的權益ヲ設定セサルコト

(ロ) 極東ニ於ケル兵備ヲ現状以上ニ増強セサルコト

一註一 日佛間ノ約定ニ基ク日佛印間特殊關係ノ解消ヲ要求セラルル場

合ハ之ヲ容認セサルコト

三、米英ハ帝國ノ所要物資獲得ニ協力スルコト

(イ) 帝國トノ通商ヲ恢復シ且南西太平洋ニ於ケル兩國領土ヨリ帝國ノ

自存上緊要ナル物資ヲ帝國ニ供給スルコト

(ロ) 帝國ト泰及蘭印トノ間ノ經濟提携ニ付友好的ニ協力スルコト

才二 帝國ノ約諾シ得ル限度

才一ニ示ス帝國ノ要求カ応諾セラルルニ於テハ

一、帝國ハ佛印ヲ基地トシテ支那ヲ除ク其ノ近接地域ニ武力進出ヲナサ

サルコト

（註）「ソ」聯ニ対スル帝国ノ態度ニ関シ質疑シ来ル場合「ソ」側ニ

於テ日「ソ」中立条約ヲ遵守シ且日滿ニ対シ脅威ヲ与フル等同

条約ノ精神ニ反スルカ如キ行動無キ限リ我ヨリ進ンテ武力行動

ニ出ツルコトナキ旨応酬ス

三、帝国ハ公正ナル極東平和確立後佛領印度支那ヨリ撤兵スル用意アル

コト

三、帝国ハ比島ノ中立ヲ保障スル用意アルコト

附

日米ノ対歐洲戦争態度ハ防護ト自衛ノ觀念ニ依リ律セラルヘク又米ノ

歐洲戦参入ノ場合ニ於ケル三国条約ニ対スル日本ノ解釈及之ニ伴フ行

動ハ専ラ自主的ニ行ハルヘキモノナルコト

（註）右ハ三国条約ニ基ク帝国ノ義務ヲ変更スルモノニアラス